

2023年度 事業報告

2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日

1 事業概要

2023 年度の子どもの自殺者は小中高合わせて 507 人となるなど、子どもたちを取り巻く環境はより一層深刻なものとなっている現状を踏まえ、子どもたちのこころの居場所としてのチャイルドライン活動を継続しています。

2022 年3月からは神奈川県内のみならず、日本全国の子どもたちの声に耳を傾けることを目指し受信地域を全国に拡げ、今年度もたくさんの子どもたちの声を聴くことができました。加えて 2023 年 8 月からはオンラインチャットも開始し、より子どもが利用しやすい環境を整え、さらに地域の関係団体と連携し、緊急時や必要なケースにおいてスムーズなサポート体制を構築してきました。

また、子どもたちと関わる受け手ボランティアの質を高めるため、研修や事例検討を積極的に行い、それによって研鑽を積んだ受け手が様々な子どもたちの話を受け止めました。

2 重点事業

(1)チャイルドライン事業 参考資料-添付資料①

○電話事業の充実

開催日時・・・月・水・木の 16 時から 21 時、フリーダイヤル

受け手 7～10 人、支え手またはチーム支え手 1～2 人

ピアヘルパー2～4 人

通話件数・・・9,707 件の通話を受けた

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
705	839	1029	846	944	820	785	787	980	712	560	700	9,707

○子どもたちへのチャイルドラインの周知

・チャイルドラインカードの発行と配布

全国共済神奈川県生活協同組合と県内の教育委員会の協力により、県内すべての小中・中等教育・高等・特別支援学校の児童、生徒たちに約 57 万枚のカードを配布した(今年度も相模原市へは配布できず)。

4 月：横浜市立小・中・高等・特別支援学校 83,500 枚

6 月：神奈川県立高等・中等・特別支援学校 111,500 枚

9月：川崎市立小・中・高等・特別支援学校	20,000 枚
11月：神奈川県内私立学校	110,000 枚
2月：神奈川県その他の小・中・高等・特別支援学校	245,000 枚
予備として：	5,000 枚
合 計：	575,000 枚

・ホームページの「子どもたちへ」をリニューアルし、より親しみやすくなった。

○オンライン事業の実施

・2023年2月オンラインチャット事業PTを立ち上げ、研修を3回受け、8月から月1回(第4土曜日16時から18時)チャットを実施している。

・特定非営利活動法人チャイルドライン支援センター主催の「ネットでんわ試行」に参加した。

月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
受け手	2	1	1	1	1	2	3	2	13
支え手	3	3	2	3	3	4	2	3	23
件数	1	6	3	3	0	6	5	3	27

(2)研修、スキルアップ事業

○受け手に対する研修事業の充実

・スキルアップ研修(子ども支援者連続講座2023表参照)

・事例検討会 5回

(5/13 19人・8/19 15人・11/11 14人・1/20 16人・3/16 9人)

・個人スーパービジョン 随時

・プチ研修 随時(毎月テーマを決めて行った)

・受け手対象の受け手ニュース発行(毎月下旬)

・子ども支援者連続講座2023(市民向け・受け手のスキルアップ研修を兼ねる)

7/1～7/29 受講者数 190人()内は現受け手ボランティア参加人数

第1回	7月1日(土) 10:30～12:30	チャイルドライン活動における性の電話	松原 康雄 松橋 秀之	39人 (10)
第2回	7月8日(土) 10:30～12:30	思春期のこころの性	岩室 紳也	44人 (16)
第3回	7月15日(土) 10:30～12:30	助産師と考える思春期の性	三原 路子	36人 (11)
第4回	7月22日(土) 10:30～12:30	性の多様性～LGBTQの理解～	遠藤 まめた	33人 (5)
第5回	7月29日(土) 10:30～12:30	「小児性愛」という病と加害者プログラム	斉藤 章佳	38人 (16)

公益財団法人よこはまユース(横浜市青少年育成センター)共催
公益財団法人神奈川新聞厚生文化事業団 後援

○受け手のケアの充実

・受け手が、支え手やピアに話しかけやすく、リラックスできる環境づくりを目指し、電話を受ける前後に支え手が事例を共有するなどケアを行った。

○第12期インターン生の養成

・2023年3月1日からチャイルドライン活動を開始。電話対応時、支え手による個人スーパーヴィジョンを行った。

(3)広報事業

○チャイルドラインの認知度を高める

・ホームページをより使いやすく更新した。
・情報誌「With You」の発行。

年2回(76号～77号)発行 2000部(共同募金会、NHK 歳末たすけあいのご協力)

配布先…会員、寄付者、県内小・中・高等学校、はまっこ・キッズクラブ

横浜市各幼稚園*、図書館、地区センター、児童家庭支援センター、児童相談所、教育委員会

*横浜市幼稚園協会を通して各幼稚園へ情報誌をデータで配布した。

・コロナ禍で中断されている出前授業の見直しをはかり、広報の仕方、授業内容の検討などを行った。(大学生ボランティアとの連携)

・オンラインでの会議や講演会ができるよう、インターネット環境を整えた。

(4)啓発イベントの開催

○チャイルドラインの社会的認知をはかる

・講師派遣事業をホームページに掲載し、継続的に講師派遣事業を7件行った。

7月7日	横浜市立新井中学校	チャイルドラインからみた子どもをめぐる今日の課題 松橋 秀之(副代表)
9月4日	川崎市麻生区合同講演会	子どものSOSを受け止めるために 野口 由起子(副代表)
10月5日	横浜市民生児童委員協議会研修	よこはまチャイルドラインの取り組みと社会的養護 松橋 秀之(副代表)
10月18日	聖ヨゼフ学園中学校 3年生	しあわせになるために ～自分を大切にする人生～ 松橋 秀之(副代表)
10月24日	中区主任児童委員連絡会	傾聴について 野口 由起子(副代表)

12月15日	横浜市栄区役所 子ども家庭支援課	地域で見守る子どもたち ～事例検討を通して児童虐待について学ぼう～ 松橋 秀之(副代表)
2月24日	子どもセンターてんぼ 養成講座	子どもの SOS を受け止めるために 野口 由起子(副代表)

(5)企業や行政、他機関との連携

○活動を広げていくために積極的に連携をはかる

- ・子ども支援者連続講座 2023 を公益財団法人よこはまユースと共催、公益財団法人神奈川新聞厚生文化事業団の後援で行った。
- ・横浜市市民協働推進センター主催「YOKOHAMA コラボプロジェクト」のプロボノメンバーが掲げた 3 本の柱「大学生向けに、ボランティア獲得」「子どもたち向けに、スクールビジット(出前授業)の再構築」(1/24 旭区笹野台小学校キッズ)「保護者や教育関係者、一般市民向けに、SNS 広報事業」を実現した。

3 組織運営に関する事業

○よこはまチャイルドラインの運営の充実をはかる

より活動が活発になるよう、多くのひとを活かせるよう、組織改編を行った。

・総会

役 割:全ての正会員で構成される最高議決機関

会 議:6月10日(土)

会員数 139 人出席総数 92 人(うち表決 46 人、委任 23 人)

全ての議案が可決された。

・理事会

役 割:全ての理事で構成され、業務執行の決定など

会 議:年 4 回実施(6/10・9/30・2024 年 2/3)

メンバー 理事 11 名 監事1名

・運営委員会

役 割:理事の業務を補助

会 議:実施なし

メンバー 8 名

・広報

役 割:会員や寄付の増加につながるよう、情報発信に努めた

会 議:3 回実施(情報誌編集会議)(5/7・9/1・1/27)

メンバー 3 名

・子ども支援事業部

役 割:子ども支援業務に関するデータ管理や受け手の質の向上に努めた

会 議:3 回実施(7/29・11/11・2/10)

メンバー 7 名

・事務局

役 割:運営上の諸事務を担当

会 議:7 月よりサポーターミーティングを月 1 回実施

サポーター(事務局補佐)

メンバー 9 名

・支え手

役 割:受け手に対する指導・助言

会 議:12 回

メンバー 17 名

・ピアヘルパー

役 割:受け手のケア全般

会 議:5 回実施(6/10・9/2 以降、毎月第 1 金曜日 20:00-21:00)

研 修:3 回実施(7/7・1/20・2/18)

メンバー 7 名

・ファンドチーム

役 割:運営するための資金活動を行う

会 議:実施なし

メンバー 2 名